

【要 旨】

1. 研究目的

産褥期における乳腺炎などの乳房トラブルの発生となる要因を明らかにし、助産師が行う乳房ケアに関する保健指導の内容について考察する。

2. 研究方法

1. 調査対象施設：岡山県内の乳房外来を有するT助産院
2. 調査対象者：乳房トラブルを主訴に来院した産後6ヵ月以内の褥婦
3. 調査方法：乳房観察記録、助産録およびカルテを用いた資料分析
4. 調査内容
1)対象者の属性 2)乳房・乳頭の状態 3)授乳方法
4)乳房管理の方法 5)乳房トラブルの種類等

5. 分析

データは単純集計、度数分布及びt検定とカイ2乗検定を用いて行った。統計的有意水準を0.05とし、データ解析にはSPSS16.0jを用いた。

3. 倫理的配慮

川崎医療福祉大学倫理委員会の承認(169)を得た。調査対象者へ研究協力依頼書と同意書を得るための返信用葉書を郵送し、同意の得られた者のみ資料分析の調査対象者とした。

4. 結果および考察

1. 対象者の属性

母親159人のうち、返信のあった人は99人(62.2%)、返信がなかった人は60人(37.7%)であり、このうち研究協力の同意があったのは92人(57%)であった。対象者の属性として、平均年齢 31.1 ± 4.6 歳であり初産婦、経産婦で有意差($p < 0.05$)があった。また、分娩時間も初産婦・経産婦で有意差($p < 0.05$)があった。これ以外の、職業の有無、分娩週数、出生体重、As、出血量に関しては両者の有意差はなかった。

2. 乳房トラブル発生要因について

褥婦の主訴は、初産婦は乳汁分泌が不安26.8%、母乳希望12.5%であった。他方、経産婦は母乳希望29.4%、乳房痛11.8%、分泌不足11.8%であった。次いで、乳房の状態をみると、初産婦は乳汁のうっ滞41.1%、基底部の閉鎖25%が主な症状であった。他方、経産婦は乳汁のうっ滞37.9%、硬結24.1%、基底部の閉鎖20.77%であった。つまり、母乳外来に来院する褥婦は、半数以上が母乳育児を希望して来院している。しかし、初産婦は母乳育児に自信が無く受診する傾向にあったが、経産婦は乳汁分泌そのものが不足している、または乳房・乳頭トラブルがあるために来院する傾向にあることが分かった。